

「北海道積丹町における民国連携による路網整備事例について」

石狩森林管理署 中塚 祥憲
石狩森林管理署 久慈 正志

研究の背景・目的

	森林（土地）所有者	
	積丹町 森林整備センター 札幌水源林整備事務所	石狩森林管理署
規模	約5,000ha 町内森林に占める割合…約24%（※1）	約15,000ha 町内森林に占める割合…約76%
課題	所有規模が小さく、活用型（※2）の森林整備ができない	森林が奥地でコスト掛かり増し（特に搬出コスト）になる

（※1）町有林のうち約650haは森林整備センターが整備を行っている

（※2）活用型…早い時期に伐採した間伐材の価値を高め材を利用（販売）する森林整備 ⇔ 存置型
存置型…販売価値が無い伐採木を山に置いて自然に還す早い時期に行う森林整備 ⇔ 活用型

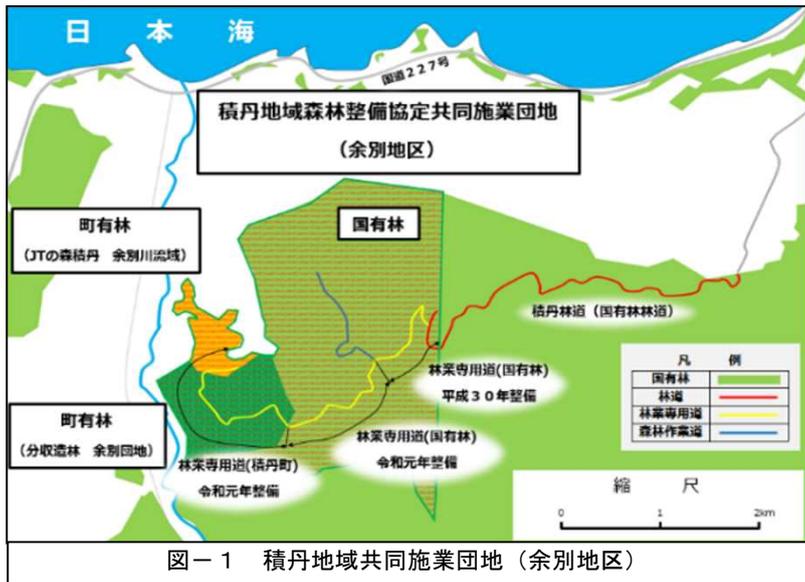


図-1 積丹地域共同施業団地（余別地区）

～平成20年度～
3者による「積丹地域森林整備推進協定」により民国連携の共同施業開始

「余別地区」では国有林が奥深く、民有林がさらに奥地のため共同施業だけでは森林整備を進められない（図-1）

「婦美丸山地区」「婦美六地区」で森林整備が進む

「余別地区」の森林整備では路網整備が大きな課題

研究の内容

路網整備により森林整備の加速化と低コスト化を図る

今回の取組

民国連携木材供給加速化対策事業により国有林が率先して路網整備を進め、共同事業実行に繋がるとともに低コスト化を図る

課題

①近隣の碎石プラントが数年前に全て廃業②工事受注者が激減という路網整備事業のハードル

平成30年度 国有林約1kmの路網整備
令和元年度 国有林約1km・町有林約1kmの路網整備

今後の展開

令和元年度は路網整備の効果が高めるため、共同土場（ストックヤード）を整備した。
民国の伐採予定地を一つの事業地として森林整備する計画であり、今回の取組によるコスト縮減と販売価格向上の効果を検証し、民国連携の加速化を図りたい。



図-2 路網整備施工中の写真